



第11回全国和牛能力共進会宮城大会が開催されました

【飛騨牛研究部】

平成29年9月7日～11日に、「第11回全国和牛能力共進会最終比較審査」が宮城県仙台市において開催されました。全国和牛能力共進会は5年に一度開催される“和牛のオリンピック”とも呼ばれる大会で、体型などを競う「種牛の部」、枝肉の肉質を競う「肉牛の部」からなり、全部で9つの部門があります。今回は、39の都道府県から選抜された約500頭の牛が出品され、岐阜県からは全部門へ27頭の牛が出品されました。当研究所からも岐阜県代表として、第1区 若雄の部 に当研究所所有の牛「光清」号を出品しました。上位入賞はなりませんでした。しかし、「光清」号の最高の姿を会場で展示することができました。飛騨牛の特徴である肉色、腿の肉質および繁殖性の改良を目的に造成された「光清」号の今後の活躍が期待されます。

先行交配へのご協力をよろしく申し上げます。



「光清」号

家畜人工授精師養成講習会を開催しました

【飛騨牛研究部】

岐阜県では、平成29年7月28日から平成29年8月25日まで、家畜人工授精師養成講習会が岐阜県農業大学校及び岐阜県畜産研究所（飛騨牛研究部）を会場として開催され、当研究部では8月18日から24日までの5日間、実際に牛を使用した実技実習を行いました。

今回は過去最多の43名の受講生があり、行程を2班に分け雌牛を用いた発情徴候の確認、直腸検査、精液注入等の実習と、雄牛から採取した精液を用いた精液性状の検査、精液の凍結等の精液製造の実習を交互にみっちり行いました。全員汗にまみれながら、真剣に取り組まれ、修業試験の結果、受講生全員が合格されました。今後は、酪農や肉用牛の生産現場等でご活躍されることを期待しております。



精液注入実習に取り組む受講生



凍結精液製造に取り組む受講生

家畜審査競技会を開催しました

【酪農研究部】

平成29年6月29日に岐阜県畜産研究所酪農研究部（恵那市）で、岐阜県学校農業クラブ連盟主催の第68回家畜審査競技会（乳牛の部）岐阜県大会が開催されました。

「健康で生涯にわたってよく働く乳牛」を「見極める技術」を高めることは、酪農経営にとって大きなメリットになります。この技術を高めるため、岐阜県学校農業クラブ連盟では、酪農研究部において、毎年1回、家

畜審査競技会を開催しています。

今年度は、4校の農業高校から各4名ずつの代表者が参加し、成牛の部と雌子牛の部の2部で、日頃の勉強の成果を競いました。協議中、各選手は、牛を直接触ったり、様々な角度から牛を眺めたりして、真剣な眼差しで、審査を行っていました。

審査講評は、酪農研究部の研究員が行い、審査をする上でのポイントについて、参加した高校生にアドバイスを行いました。



県内農林高校で食味官能試験を実施しました

【養豚・養鶏研究部】

養豚・養鶏研究部では、平成29年7月3日に、加茂農林高校のご協力をいただき、食味官能試験を実施しました。

現在、畜産物の品質に関する研究では実際に食べてその差を評価する「官能評価」まで実施することが必要となっており、当研究部でも官能評価の実施を進めています。

今回は、トウモロコシを主体とした一般的な配合飼料を給与した肥育豚の豚肉と、トウモロコシの代わりに精米を配合した配合飼料(精米60%配合)を給与した肥育豚の豚肉との比較を行い、香りに差が認められるなど、興味深い結果が得られました。

今後も各種の肥育試験で得られた豚肉の官能評価を実施していく予定にしております。

官能評価では、できるだけ一般消費者に近い評価者(パネリスト)をたくさん集めることが第一歩になります。特別な選抜テスト等は実施しませんので、参加の打診がありましたら是非積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

また、皆様の元に出向いて実施もしておりますので、興味がある、やってもよい、という所属・団体の方はぜひ当部までご連絡下さい。

今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(なお、この取り組みについては『革新的技術開発・緊急展開事業』(うち先導プロジェクト)で実施しています。)



平成29年度卵用奥美濃古地鶏の譲渡を行いました

【養豚・養鶏研究部 関試験地】

養豚・養鶏研究部(関試験地)では、年1回、飼養を希望される県内の皆様に、地域特産鶏「卵用奥美濃古地鶏」の譲渡を行っています(要申込)。

今年度も、春に孵化した育成鶏の譲渡を6月28日に行いました。

毎回譲渡の前に、卵用奥美濃古地鶏の特徴や飼養管理方法の説明を行います。加えて今回は、本年1月に県内で高病原性鳥インフルエンザが発生したため、譲渡希望者から現在の鶏の飼養状況等について聞き取りを行い、適宜、飼養環境等含めた衛生管理指導を行いました。

卵用奥美濃古地鶏の特徴

卵は、淡い茶色のSSサイズ(45g)の卵を産みます。茶碗1杯の卵かけご飯にちょうど良いサイズです。また、卵黄卵重比が高く、通常の市販卵の1.3倍です(黄身の割合が高い)。



奥美濃古地鶏の特徴、飼養管理の説明と飼養状況の聞き取り



育成鶏舎から運んできた卵用奥美濃古地鶏を当所の外来駐車場でお渡し

お知らせ

今年度の畜産研究所ふれあい報告会を下記のとおり予定しています。是非とも多くのご参加をお待ちしております。

日 時 11月24日(金)

場 所 JAひだ 2F 研修室

講演会 「食肉のおいしさについて(仮題)」

講 師 日本女子大学 家政学部 飯田 文子 教授

現場後代検定枝肉研究会の開催予定

【飛騨牛研究部】

種雄牛候補牛の産肉能力検定に係る枝肉研究会の今年度の開催予定はつぎのとおりです。

永福久 平成29年11月

正義久 平成30年 1月

八重藤 平成30年 3月

岐阜県畜産研究所 ホームページ<http://www.livestock.rd.pref.gifu.lg.jp>

- 飛騨牛研究部 506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1
Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227 Email boxbeef@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 酪農研究部 509-7601 恵那市山岡町久保原 1975-615
Tel 0573-56-2769 Fax 0573-56-2974 Email boxdairy@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養豚・養鶏研究部 505-0037 美濃加茂市前平町 3-8
Tel 0574-25-2185 Fax 0574-28-4132 Email boxswine@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養鶏・養鶏研究部関試験地 501-3924 関市迫間 2672-1
Tel 0575-22-3165 Fax 0575-22-3164 Email boxpoultry@livestock.rd.pref.gifu.jp